信州職人学校
伝統大工コース

学｜校｜案｜内

信州の伝統を未来につなぐ
新たな時代の大工棟梁を育成

2013年春
新規受講生募集

長野県建設労働組合連合会／伝統建築技能継承事業運営委員会
長野県松本技術専門校

信州職人学校　事業概要　――伝統構法の継承と新たな時代の

「新しい木造(住宅)文化の創造をめざして　ー今、何が求められているかー」

現在、国では持続可能な社会を実現するため、「地球温暖化対策」、「資源のリサイクル」、「間伐材利用」などの課題解決が迫られています。その打開策の一つとして公共建築物木材利用促進法が成立し、今後、地域材の利用が推進されようとしていますが、木造建築物に必要な品質・性能を適切に判断できる大工等の技術・技能者は不足傾向にあります。

また、住宅建築の現場では、技能不在の家づくりが主流となり、技能継承が困難になっていること、職人技能の低下により待遇(賃金)の悪化が顕著なこと、若者の入職が減少し高齢化が急速に進んでいることなど、危機的な状況にあります。

建設労連では、こうした状況をふまえ①伝統建築技能の次世代への継承(技能後継者の育成)、②建築技能に対する社会的評価の向上(建築技能者の地位向上や待遇改善)、③伝統技能を生かした家づくりの推進等を目的に、**「信州伝統建築技能継承事業」**に取り組んでいます。その第1弾として、2009年6月より長野県や内外関係者の協力を得て、『信州職人学校・伝統大工コース』を開講しました。

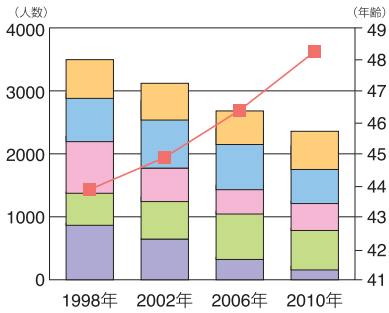
このコースでは、**「信州の伝統を未来につなぐ、新たな時代の大工棟梁」の育成**を目指して、**中堅大工を対象にしたステップ訓練**(1年目:基礎コース、2年目:応用コース)を行います。各コース修了者には、**長野県知事が認定した独自の「技能評価試験」を実施**し、合格者は「信州伝統大工」(1級、2級)の称号が与えられ、将来の活躍の基盤が形成できます。

開講以来、3年間で延57名(入門講座を含む)の仲間が受講し、過去2回の技能評価試験では延11名に「信州伝統大工」(1級4名、2級7名)の称号が与えられました。また、信州職人学校は2010年度、**国土交通省・林野庁連携プロジェクト『木のまち木のいえ担い手育成拠点』**の全国10カ所の一つに選定され、2011年度には**国土交通省『木造住宅施工能力向上・継承事業』**に応募・採択されました。こうした国庫補助事業の導入により、独自の教材テキストや学校ホームページを製作するなど伝統大工コースの充実を図ったほか、伝統技能者の活躍の場を確保・拡大するため信州建築職人ネットワーク委員会を設置して具体策の検討を始めるなど、全国からも注目される取り組みとなっています。

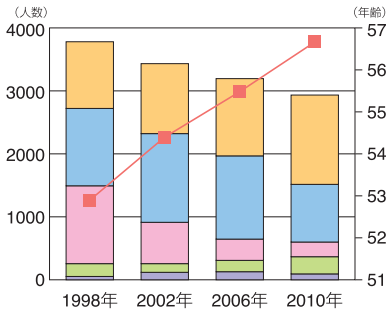
建築大工の人数・年齢の推移

(建設労連・けんろう共済加入者データより)

職　人



一人親方



凡例
60歳以上　50～59歳　40～49歳
30～39歳　15～29歳　平均年齢

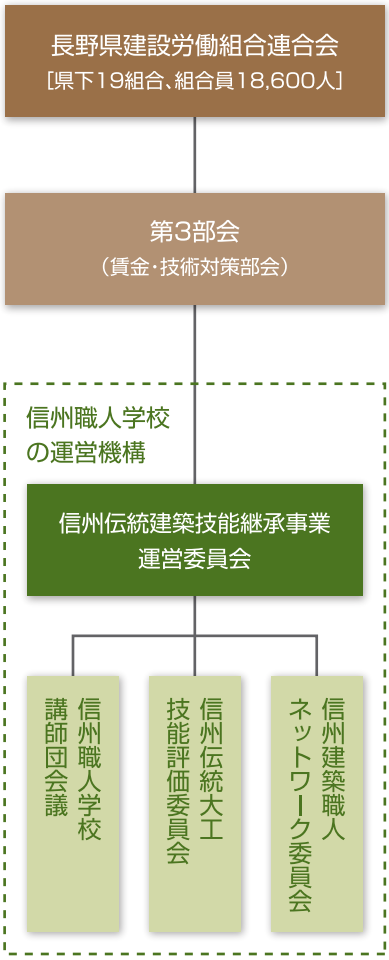
これまでの主な取り組み経過

2004年	5月 建設労連定期大会で伝統建築技能者養成対策への着手決定 10月 金沢職人大学校を視察
2005年	11月 島根県立松江高等技術校・伝承建築科を視察
2006年	12月 伝統建築技能継承検討委員会を設置(検討結果の答申までに13回開催)
2007年	8月 同検討委員会のコーディネーターを秋山恒夫氏に依頼
2008年	10月 建設労連執行委員会へ「伝統建築技能継承事業」の実施を答申、承認を受ける 11月 長野県より「信州伝統大工技能評価」の認定を受ける 12月 信州伝統建築技能継承事業運営委員会を設置(開講準備を開始)
2009年	3月 第1回信州伝統大工養成セミナーを開催(受講者募集) 6月 信州職人学校・基礎コース(1期生)開講 ～訓練期間6カ月～11月 修了式 11月 信州伝統大工2級技能評価試験
2010年	6月 応用コース(1期生)開講 ～訓練期間6カ月～11月 修了式 10月 林野庁・国土交通省「木のまち木のいえ担い手育成拠点」事業の応募・採択 11月 信州伝統大工1、2級技能評価試験
2011年	6月 基礎コース(2期生)開講 ～訓練期間6カ月～11月 修了式 8月 国土交通省「木造住宅施工能力向上・継承事業」の応募・採択 11月 「民家フォーラム2011in信州」にて民家木組みの建て方実演 11月 信州伝統大工1、2級技能評価試験

開講式

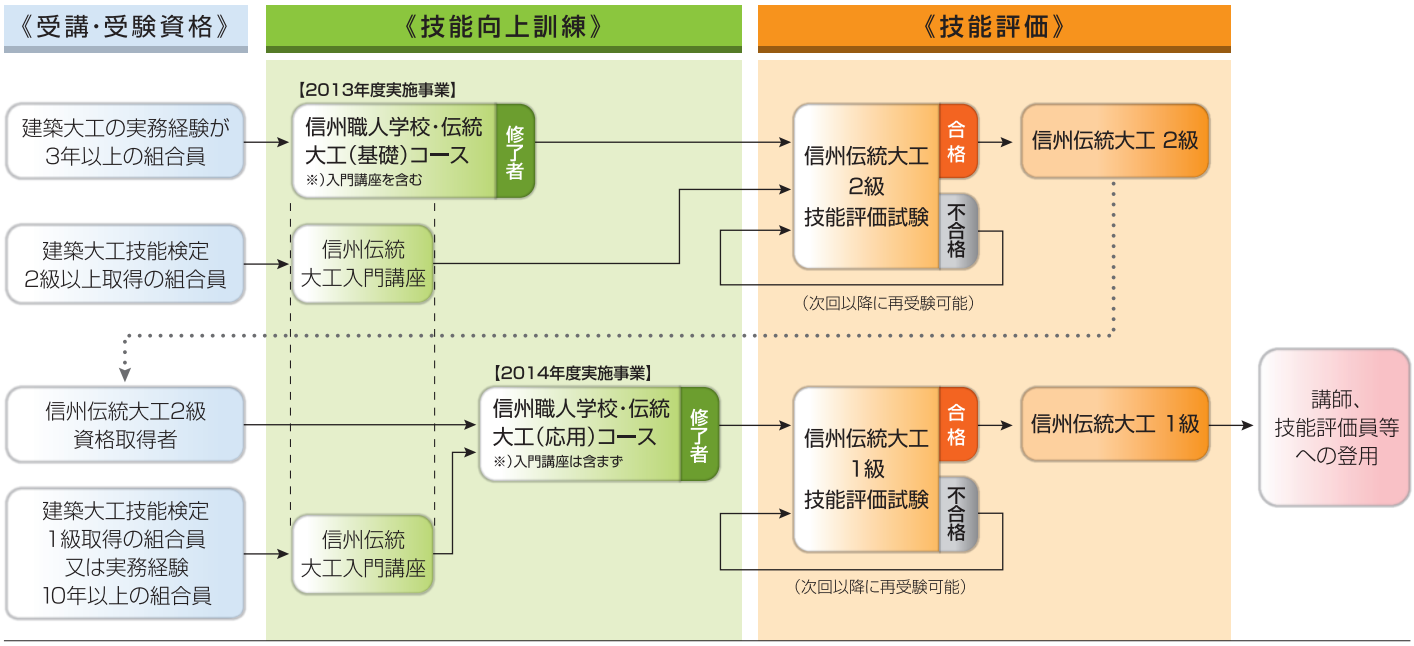
修了式

事業の推進体制



ひとづくりを目指して――

事業のスキーム（技能継承訓練と技能評価の仕組み）



信州職人学校 伝統大工コースの訓練概要

①入門講座（座学中心）：訓練期間は計7日、27時間
②基礎コース（座学＋実技）：訓練期間は６ヶ月コース、計25日、175時間
③応用コース（座学＋実技）：訓練期間は６ヶ月コース、計25日、175時間
※）実技訓練は、県のスキルアップ事業を活用（基礎・応用コースの修了者には修了証を交付）。

各コースの詳細はP3～4を参照ください

信州伝統大工技能評価試験の概要

	信州伝統大工２級技能評価試験	信州伝統大工１級技能評価試験
受験資格	① 信州伝統大工・基礎コースを修了した者 ② 信州伝統大工・入門講座を修了した者	■ 信州伝統大工・応用コースを修了した者
受験手数料	18,000円（学科 3,000円・実技 15,000円）	
学科試験	● 時　間：1時間40分 ● 問題数：50問（真偽式25問、択一式25問） ● 合格点：70点以上	■ 時　間：1時間40分 ■ 問題数：50問（真偽式25問、択一式25問） ■ 合格点：70点以上
実技試験	● 時　間：6時間 ● 2009～2011年度製作課題 ● 合格点：70点以上 ［持ち点100点からの減点方式］ 	■ 時　間：7時間 ■ 2010・2011年度製作課題 ■ 合格点：70点以上 ［持ち点100点からの減点方式］
試験実績	● 2009年度：受験17名／合格5名 ● 2010年度：受験　4名／合格2名 合格率 33.3%	■ 2010年：受験14名、合格４名 合格率 28.6%
合格者	長野県技能評価認定制度に基づき、長野県知事および建設労連執行委員長の連名で合格証書（「信州伝統大工」２級、１級）を交付。	

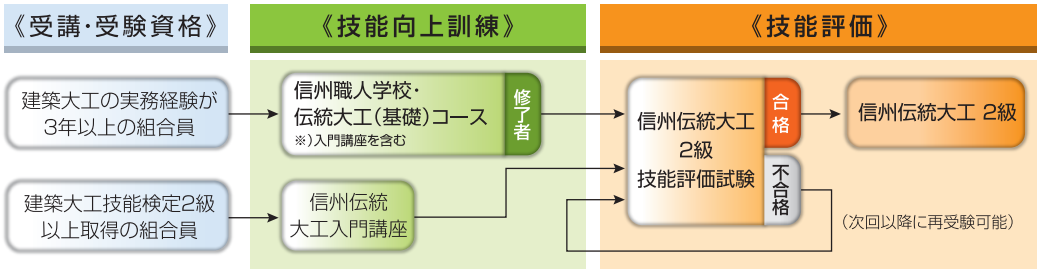
実技試験風景

合格証書

信州職人学校　伝統大工コース（基礎コース）

基礎コースの概要

本コースでは、「伝統の技を現代に生かした架構計画（木組み）を提案し、施工できる技能レベル」を到達目標とし、「伝統構法の**基礎的な**知識・技能を有する**大工技能者**」の育成を目指します。
【2013年6月開講】



訓練風景

実技 基本道具づくり

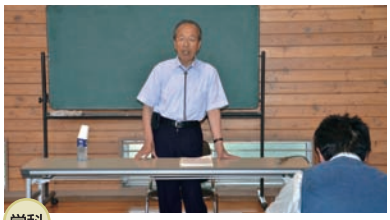
実技 基本工作実習

学科 木造構造力学

実技 木造材料（実験）

学科 木造材料

学科 信州の建築


学科 民家の改修と再生

学科 伝統建築研究

学科 新伝統構法の計画

実技 基本規矩術実習

実技 木造施工実習

地域調査（研修旅行）

2級実技試験練習

基礎コースの訓練カリキュラム（2011年度）

区分	訓練科目	訓練内容	コマ数	講師陣
学科	木造材料	木材の産地・樹種別の基本特性、維持管理法（乾燥、腐朽、手入れ）等の実務に役立つ知識を学ぶ。	4	長野県林業総合大学校 武井　富喜雄
	信州の建築	信州の伝統的建造物の歴史、構法等についての基礎知識を学ぶ。	2	信州伝統的建造物保存技術研究会 吉澤　政己
	木造構造力学	構造計算のもとになる構造力学の基本（力の流れ、部材の応力と変形）を解説、演習により理解を深める。	10	㈱司構造計画 玉腰　徹
	民家の改修と再生	信州の民家の改修・再生方法について、調査、設計、施工法の基礎知識を学ぶ。	4	㈱降幡建築設計事務所 降幡　廣信 宮澤建築 宮澤　郁夫
	伝統建築研究	日本の伝統木造建築の概論を学ぶ。	2	秋山恒夫建築研究室 秋山　恒夫
	新伝統構法の計画	伝統構法に改良工夫を加えた新伝統構法について、耐震実験等に裏付けられた構造と施工方法を学ぶ。	2	㈲三浦創建 三浦　保男
	木造積算	木造積算の手法（木拾い、歩掛り、人工計算等）を学び、実例をもとに演習を通じて理解を深めるとともに、木造図面（構造図、伏図等）の基本的な読み方とポイントを学ぶ。	6	㈲マル和建設 藤森　久弘
	2級学科補習、模試	信州伝統大工2級技能評価試験（学科）に向けた補講と模擬試験を行う。	2	秋山恒夫建築研究室 秋山　恒夫
実技	基本道具づくり	各自の手道具の点検を行うとともに、道具づくり（鑿、鉋を中心に仕込みと研ぎもの）を通じて手道具への愛着を深める。	3	㈲寺島工務店 寺島　新蔵
	基本工作実習	仕口・継手の役割と用途を学び、鎌継ぎ、追掛け大栓、金輪継ぎ、三方差し等の墨付け、刻み、組み立てを行う。	8	宮澤建築 宮澤　郁夫
	木造材料（実験）	仕口・継手（試験体）の製作と強度実験を通じて、接合部強度への理解を深める。	5	
	基本規矩術実習	現寸図の作成を通して規矩術の基本を学ぶ。	6	㈲寺島工務店 川又　健
	木造施工実習	一部古材をを使った民家の架構フレーム（2間半×4間）の墨付け、刻み、組立て等一連の作業を通じ、伝統構法への理解と技能を身につける。また、「民家フォーラム2011」において、建て方作業（実演）を行う。	42	宮澤建築 宮澤　郁夫 ㈲三浦創建 三浦　保男
	2級実技試験練習	信州伝統大工2級技能評価試験（実技）に向けた練習を行う。	9	㈲寺島工務店 川又　健
公開講座		受講生への座学を兼ねて、通常授業で盛り込めない内容をテーマに、オープンセミナーとして開催。	5	県内外の棟梁、設計者、学識経験者に委嘱
地域調査		1泊2日で地域の伝統的建造物や建築文化を調査し、成果発表を行う。	10	秋山恒夫建築研究室 秋山　恒夫
その他		開講式・ガイダンス、総評、修了式	3	
合計			123	

※入門講座は上記の内、指定された18コマ（7日間）を受講、8割以上履行で修了。

信州職人学校　伝統大工コース（応用コース）

応用コースの概要

本コースでは「伝統の技を現代に生かした架構計画（木組み）を提案し、施工できる技能レベル」を到達目標とし、「伝統木構法の**広範な**知識・技能を有する**棟梁**」の育成を目指します。
【2014年6月開講】

《受講・受験資格》
- 信州伝統大工2級資格取得者
- 建築大工技能検定1級取得の組合員又は実務経験10年以上の組合員

《技能向上訓練》
- 信州職人学校・伝統大工（応用）コース　修了者
- 信州伝統大工入門講座　（入門講座は前年に開講する基礎コースと同時開講）

《技能評価》
- 信州伝統大工1級技能評価試験　合格 → 信州伝統大工 1級
- 不合格 →（次回以降に再受験可能）

訓練カリキュラムの概要

実技　伝統構法実習
伝統構法を取り入れた東屋建築の一連作業を通し、伝統構法の施工法を実習する。

実技　応用工作実習
伝統木造に係る応用的な加工法、組み方等を実習する。丸太の墨付け・加工、伝統仕口・継手、光付け等。

学科　伝統建築研究
「日本の伝統建築」について研究テーマを設定し、伝統的建造物の実測調査等を通じて学習・研究する。

実技　応用道具づくり
道具づくりの応用を学ぶ。手持ち道具の手入れ（砥ぎ、裏押し、鉋の台直し）や反り台鉋づくりを実習する。

実技　応用規矩術実習
規矩術を応用した各種実習を行なう。縮尺図をもとに軒反り屋根の原寸書き及び型取りの手法を習得する。

実技　材料・構造実験
材料の特性や部材としての必要な要件を学ぶとともに、試験体製作及び構造実験（壁試験）を通して木材や木構造の理解を深める。

学科　木造設計
具体的事例をもとに、一連の設計演習を行う。（伏図、矩計図、部分詳細図等）

学科　木造生産・経営
伝統構法の施工管理方法を学ぶとともに、木造生産システムや工務店経営等に関する今後への視点を育成する。

学科　木造構造計画
構造計画の基礎から伝統構法の架構計画の方法（荷重・応力、部材断面・接合部、許容応力度法、限界耐力計算法）等を、実例に即して学ぶ。

1級学科補習模試
信州伝統大工1級技能評価試験（学科）に向けた補講と模擬試験を行なう。

1級実技試験練習
信州伝統大工1級技能評価試験（実技）に向けた練習を行なう。

応用コースの年間授業計画（2010年度）

月／日	回	行事	Ⅰ限 9:00～10:30	Ⅱ限 10:40～12:10	Ⅲ限 13:00～14:30	Ⅳ限 14:40～16:10	Ⅴ限 16:20～17:20
6/5(土)	1	開講式	開講式・ガイダンス	公開講座8	応用道具づくり1		
6/12(土)	2		木造構造計画1		木造構造計画2		
6/19(土)	3		応用規矩術実習1		応用規矩術実習2		
6/26(土)	4		木造構造計画3		木造構造計画4		
7/3(土)	5		応用規矩術実習3		応用規矩術実習4		
7/10(土)	6		木造設計1		応用規矩術実習5		
7/17(土)	7		OJT報告	調査事前学習	木造設計2		
7/18(日)	8		調査研修旅行（1泊2日）				
7/19(祝)	9	海の日					
7/24(土)	10		材料・構造実験1（講義）		公開講座9		
7/31(土)	11		伝統建築研究1		伝統建築研究2		
8/7(土)	12		材料・構造実験2（試験体製作）		材料・構造実験3（試験体製作）		
8/21(土)	13		応用工作実習1		応用工作実習2		
8/28(土)	14		材料・構造実験4（実験）		材料・構造実験5（実験）		
9/4(土)	15		応用工作実習3		応用工作実習4		
9/11(土)	16		応用工作実習5		伝統構工実習1		
9/18(土)	17		伝統構法実習2		伝統構法実習3		
9/25(土)	18		伝統構法実習4		伝統構法実習5（仮組、建て方準備）		
10/2(土)	19		木造生産・経営1		公開講座10		
10/9(土)	20		伝統構法実習6（地鎮祭、建て方）		伝統構法実習7（建て方）		
10/10(日)	21		伝統構法実習8（屋根、他）		伝統構法実習9（上棟式）		
10/16(土)	22		木造生産・経営2		1級実技試験練習1		
10/23(土)	23		木造生産・経営3		1級実技試験練習2		
10/30(土)	24		1級学科模試・補講		1級実技試験練習3		片づけ
11/6(土)	25	修了式	総評	公開講座11	修了式	受験心得	祝賀会

11/13(土)			1・2級技能評価試験（学科）	受験準備
11/20(土)			2級技能評価試験（実技）	
11/21(日)			1級技能評価試験（実技）	
11/29(月)			「信州伝統大工1・2級」合格発表	

伝統構法等に関する豊富な知識と技を学ぶ

信州伝統大工養成セミナー

信州職人学校の開講に先立ち、伝統的建築技能の継承や伝統木構法による家づくりに対する理解を深めてもらうため、「伝統大工コース」の受講者募集を兼ねてセミナーを開催しています。

回数・開催日	講座内容（テーマ・講師）
第1回 2009年3月27日	「伝統木構法が切り開く未来」 増田 一眞 氏 （㈱増田建築構造事務所代表、NPO伝統木構造の会会長） 「伝統の技を現代に生かす魅力ある家づくり」 上野 英二 氏 （オークヴィレッジ木造建築研究所代表） パネルディスカッション「信州職人学校伝統大工コースは何をめざすか」
第2回 2011年2月11日	『日本の伝統建築技術の継承と次世代育成をめざして』 西澤 政男 氏 （㈱西澤工務店代表取締役、NPO日本伝統建築技術保存会会長） 『木のまち木のいえ担い手育成拠点プロジェクトがめざすもの』 加来 照彦 氏 （㈱現代計画研究所取締役／木のまち木のいえ担い手育成拠点WG委員） パネルディスカッション「信州職人学校伝統大工コースは何をめざすか」 司　　会:秋山 恒夫 氏 （職業開発総合大学校東京校元教授、信州職人学校コーディネーター） パネリスト:西澤 政男 氏・加来 照彦 氏・岸 豊 氏 （新建新聞編集部記者） 宮澤 郁夫 氏 （大工棟梁、信州職人学校講師）

公開講座

公開講座は、受講生の座学を兼ねて、通常の授業では盛り込めない内容をテーマに、広く一般市民も参加できるオープンセミナーとして、定期的に開催しています。県内外より著名な講師を招き、座学にとどまらず実技（実演）やワークショップも取り入れた多様なセミナーを開催してきました。

回数・開催日	講座内容（テーマ、講師）
第1回 2009年6月6日	金沢職人大学校と金沢城復元工事 ー金沢の建築文化継承に向けた"ひとづくり" "ものづくり"ー 河村 松一 氏 （石川県建築組合連合会会長、石川県建築工事協同組合会長）
第2回 2009年7月11日	信州の風土と建築の歴史から学ぶ ー伝統的な民家建築に生かされた職人の知恵と技ー 吉澤 政己 氏（NPO法人 信州伝統的建造物保存技術研究会 副理事長） 和田　勝 氏（NPO法人 信州伝統的建造物保存技術研究会 副理事長）
第3回 2009年8月1日	民家再生と職人の技 講演1　ー民家再生に何を学ぶかー 降幡 廣信 氏（㈱降幡建築設計事務所 所長） 講演2　ー民家再生工事の現場からー 宮澤 郁夫 氏（大工棟梁、信州職人学校講師）
第4回 2009年8月29日	伝統構法の架構学と模型実験 第1部／講演　ー伝統構法の架構学原理ー 第2部／実験　ー伝統構法フレームの簡易構造実験ー 増田 一眞 氏（㈱増田建築構造事務所代表、NPO伝統木構造の会会長）
第5回 2009年10月3日	伝統構法の現代への展開 プレ講演　ー伝統構法見直しへの動きー 秋山 恒夫 氏（職業能力開発総合大学校元教授、信州職人学校コーディネーター） 基調講演　ー伝統木造の耐震化と耐震性能検証ー 木内　修 氏（㈱木内修建築設計事務所代表、NPO伝統木構造の会理事） 構造模型と構法解説1　ー信州の伝統的民家ー 宮澤 郁夫 氏（大工棟梁、信州職人学校講師） 構造模型と構法解説2　ー新伝統構法による現代住宅ー 三浦 保男 氏（㈲三浦創建代表、信州職人学校講師）

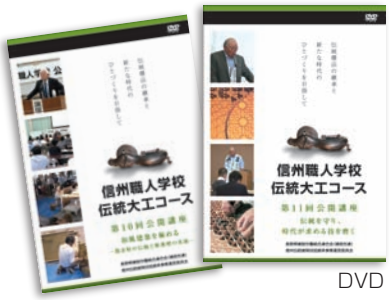
回数・開催日	講座内容（テーマ、講師）
第6回 2009年11月7日	大工一代 師匠の心弟子に伝える 白井 宏 氏（㈱白井大工代表、富山県建築組合連合会会長）
第7回 2010年1月20日	第5回公開講座と同内容
第8回 2010年6月5日	伝統的な職人技術の継承と活用 土本 俊和 氏（信州大学工学部建築学科教授）
第9回 2010年7月24日	宮大工 直井光男棟梁による講演と大工道具の実演 直井 光男 氏（建築直井代表、宮大工）
第10回 2010年10月2日	和風建築を極める　ー数寄屋の伝統と聚楽壁の実演ー 第1部／講演　ー数寄屋の伝統が今日の"和風"ーその形と技と心ー 中村 昌生 氏（京都工芸繊維大学名誉教授、京都伝統建築技術協会理事長） 第2部／実演　ー聚楽壁（京壁）の実演ー 杉森 義信 氏（京左官研究所・所長）
第11回 2010年11月6日	伝統を守り、時代が求める技を磨く 横田 栄一 氏（栄建具工芸代表、全国伝統建具技術保存会会長）
第12回 2011年6月4日	上條 勝「削ろう会」会長による講演と鉋削りの実演 上條　勝 氏（県長野技術専門校訓練課長、削ろう会JAPAN会長）
第13回 2011年9月3日	山と職人と住まい手をつなぐ伝統構法の家づくり ー〈 ワークショップ「き」組 〉の挑戦ー 松井 郁夫 氏（㈱松井郁夫建築設計事務所、(社)ワークショップ「き」組・代表理事）
第14回 2011年11月12日	日本の林業の現状と未来 柴原　薫 氏（南木曽木材産業㈱ 代表取締役）

訓練内容（伝統大工コース）の拡充

教材テキストの充実

内外関係者の協力を得て、信州職人学校独自のテキストを毎年作成、整備しています。このテキストは、2年間（基礎・応用コース）の授業で使用する他、自主学習資料としても活用できます。さらに、著名な建築家や棟梁などが講演した「公開講座」DVDを提供しています。

テキスト



DVD

総合製作実習、新たな座学システム、継続訓練など

受講生の技能習熟度や訓練ニーズをふまえ、毎年、カリキュラムを見直して訓練内容の充実を図っています。また、各コースの総合実習（実技訓練）で取り組む、伝統構法による「木組み」製作も訓練の魅力の一つです。今後は、訓練修了後のフォロー対策（継続訓練）や新たな座学システム（Eラーニング）の導入などを検討し、可能なところから具体化を図り、「多面的な知識と質の高い技能を有する大工棟梁」の育成システムを構築していきます。

技能を生かした活躍の場づくりに向けて

ホームページやイベントで情報発信

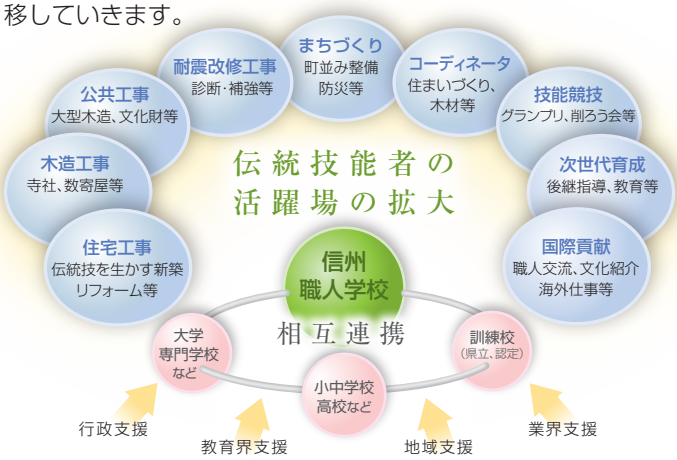
信州職人学校独自のホームページを開設し、学校案内をはじめ、授業の様子や公開講座、イベント情報などを随時掲載。受講生や修了生の仕事事例を紹介する写真ギャラリーやインタビュー記事も掲載し、伝統技能を生かした家づくりの魅力を発信しています。また毎年、ものづくりイベントに参加して、学校や「信州伝統大工1・2級」称号者の社会的PRに努めています。

ホームページ

ものづくり体験フェア

ネットワーク委員会の設置と展開

建設労連では2011年、「信州伝統大工1・2級」称号者をはじめ伝統建築技能継承者の活躍の場の確保と拡大を図るため、各方面の専門家・学識経験者で構成する「信州建築職人ネットワーク委員会」を設置しました。この委員会では、関係団体との幅広い連携による仕事機会の開拓、公共木造建築工事への参加など多様な方策を検討し、伝統技能者活用に向けたアクションプランを取りまとめます。建設労連では、可能なところから実行に移していきます。



修了生からのメッセージ

柳澤 勝明 氏
2009年基礎コース
2010年応用コース修了
茅野市

最近の現場では見ることの少なくなった伝統的な継手仕口で組まれた建築物。大工になった以上、そういった仕事がいつ来てもいいように準備しておきたいです。この学校では知識、技能共にレベルを上げる事ができ、また県内広い範囲に心強い仲間が出来てネットワークが広がりました。

片井 英治 氏
2009年入門講座
2010年応用コース修了
佐久市

近年、組立工になってしまった大工。あなたは本当の大工として胸を張って言えますか。職人学校は、日常業務では修得しにくいことを、訓練（体験）を通じて身に付ける入口になります。当然、日々勉強していかなければなりませんが、仲間も県下各地にでき、修了後も良きライバルとして切磋琢磨できます。私も、もっと若いうちに参加できたら良かったと思っています。今の仕事に疑問を持っているなら、すぐにでも参加して下さい。本当の棟梁と呼ばれるように、職人の地位 向上をめざし一緒に頑張りましょう。

舛田 宜彦 氏
2009年基礎コース修了
安曇野市

伝統大工コースに参加して一番の収穫は、県下各地域に多くの仲間ができたことです。講師の先生はもとより、同期生からもいろいろな考え方や手法を学び、刺激を受けると同時に視野も広がりました。伝統技能が廃れつつある中で、このコースで学んだことは自分の将来のためにも、広い意味では木造建築業界のためにも必ずプラスになると思います。

信州職人学校　第3期伝統大工コースのご案内

2013年度 基礎コース/入門講座

コースの概要

内容	基礎コースでは「伝統の技を現代に生かした架構計画(木組み)を提案し、 施工できる技能レベル」を到達目標とし、 「伝統木構法の基礎的な知識・技能を有する大工技能者」の育成を目指します。 入門講座は、基礎コースの中から指定された科目(7日間程度)を受講します。 基礎コース、入門講座とも8割以上の出席で修了となります。
応募資格	伝統構法に関する大工技術・技能の継承を志す者で、以下の①及び②に該当する者 ①長野県建設労働組合連合会傘下組合の組合員 ②建築大工の実務経験3年以上、あるいは建築大工技能検定2級以上取得者 ※建築大工技能検定2級以上取得者は入門講座修了後、信州伝統大工2級技能評価試験を受験することができます。
訓練期間	**2013年6月～11月の毎週土曜日**（計25日間程度）
会場	長野県松本技術専門校・体育館(松本市寿北)、建労会館(松本市宮渕本村)
募集人員	**15名程度**（2013年6月入校・第3期生）
受講料	**48,000円**（材料代・テキスト代を含む） ※建築大工技能検定2級以上取得者で入門講座のみ受講する者は10,000円　※地域調査(研修旅行)の個人負担14,000円程度は別途徴収

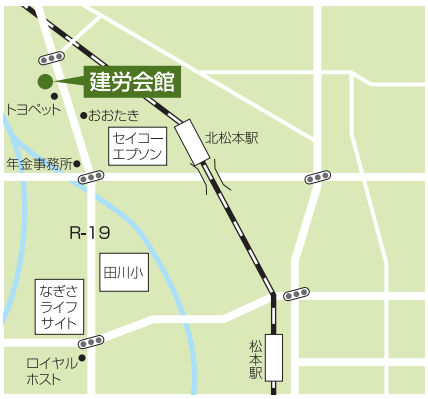
募集要項

応募書類	受講希望者は、受講申込書に必要事項を記載の上、以下の添付書類を添えて郵送により申し込んで下さい。 (1)写真を貼付した履歴書及び職務経歴書 (2)建築大工の実務経験を証明する書類又は建築大工技能検定2級以上の合格証書の写し
応募受付期間	**2013年4月を予定**
応募書類の提出先	〒390-0864 松本市宮渕本村1-2　建労会館 長野県建設労働組合連合会 伝統建築技能継承事業運営委員会 宛
選考	入校者の選考は、書類審査及び面接等により行ないます。 ※正式な受講案内は、2013年4月初旬に信州職人学校ホームページに掲載します。一部、内容が変更になることがありますので、必ず事前にご確認下さい。 **信州職人学校ホームページ　http://www.u-kensetu.gr.jp/shokunin/**

《建設労連とは》

長野県建設労連は、昭和22年に設立以来64年の歴史と伝統を持ち、現在、県内19組合で18,600人の建設業従事者が加入しています。長建国保(国保組合)や労働保険(雇用・労災)、各種共済制度の取り扱いをはじめ、資格取得対策や税金相談など、建設業に従事する労働者・一人親方・事業主の仕事と健康、生活を守るため、さまざまな支援事業を行っています。信州職人学校は、技能後継者の育成や建築技能者の社会的地位向上のため、組合の技術・技能対策の一環として取り組んでいます。

訓練会場地図：建労会館



訓練会場地図：長野県松本技術専門校・体育館

お問い合わせ

長野県建設労働組合連合会〔建設労連〕

〒390-0864 松本市宮渕本村1-2 建労会館

tel.0263-39-7200 fax.0263-39-7202